

令和5年度 総合教育会議 議事録（要点筆記）

■日時：令和5年11月21日（火）15：30～17：00

■場所：日向市役所本庁2階 災害対策本部室

I. 会議出席者

■総合教育会議委員

<日向市長>十屋 幸平 <教育長>今村 卓也

<教育委員>垣内 正俊、是澤 利保、黒木 智美、児玉 広美

■事務局

<教育委員会>小林教育部長（教育総務課）大平課長、三窪係長

（学校教育課）若杉課長、竹之内課長補佐、野元課長補佐、小野係長

<総合政策部>日高総合政策部長（総合政策課）長山課長、黒本課長補佐

■傍聴者・報道機関（1名）

三樹 喜久代（日向市議会議員）

II. 配布資料

会次第

資料1 日向市総合教育会議設置要綱

資料2 日向市総合教育会議（協議資料）

資料3 日向市教職員働き方改革プラン

資料4 教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）【概要】

資料5 学校・教師が担う業務に係る3分類

資料6 第3向日向市総合計画策定基本方針

資料7 第1回まちづくりワークショップ通信

※資料はすべて事前配布。

III. 会議内容

1. 開会（省略）

2. 市長あいさつ（省略）

3. 協議事項

(1) 教職員の働き方改革について

(2) 第3向日向市総合計画の策定について

(3) その他

IV. 協議事項の主な内容

(1) 教職員の働き方改革について

(市長)

- 教職員の働き方改革ということで、教職員の人数の問題だけではなく、不登校となった児童への対応や児童虐待など様々な課題があり、しっかりと議論をしながら市としてどうするか考えていきたい。

(事務局)

資料2～資料5に基づき説明。

(教育委員)

- 学校というのは人づくりの最たるところだと考えているが、働く若者に対して教師という職業の魅力をアピールしていく必要があると感じている。
- 地域と家庭、学校の役割分担については理解を進めていくことが必要だと感じている。

(教育委員)

- 経営者という立場でいうと、働き方改革は耳の痛い課題である。年間休日数の増加や事務分担の見直しを行っているが、人手は必要となってくる。教育現場でもまさにヒト・モノ・カネが必要となっているのをどのように解決していくのが課題だと感じている。
- 生徒一人ひとりに向き合う教育が理想であり、そういった理想的な先生に出会うことができれば教師を目指す人も増えてくると思う。
- ICTやDX活用の説明もあったが、働き方改革にどうつながっていくのかの効果検証が大事。例えば、授業の事前準備について、ICTを活用することで他の先生と情報の共有をすることができれば、全体的に負担が減っていくのではないかと。

(教育委員)

- 日向市では他の市町村に先駆けて教職員の働き方改革に取り組んでいると感じている。では次の取組は何かとなると資料で説明のあった細かな部分に取り組んでいく必要があるのではないかと。
- 特別支援教育など支援が必要な児童生徒の対応、ICTの活用推進についても、地域や保護者への理解をどのように深めていくのが大切だと感じている。

(教育委員)

- 働き方改革と言いながら、休日出勤や朝早くから仕事をするような働き方は良くない。子どもに夢を与えられるような教職員になるには、やはりゆとりがないと難しいのではないかと感じる。

(教育長)

- 教育委員の皆様については、市内の学校訪問を行っていることから、教職員に次いで学校のことを理解して頂いている方々だと思っている。働き方改革の目的は教職員が健全な状態で教育活動を行っていくためだと思うが、これまで、子どもを朝早く校門に立って迎える先生や昼休みに遊んでくれる先生が良い先生と言われていた。その時間を捻出するためには、自宅に仕事を持ち帰るのが当たり前の状況となっている。それを改善するためには、教科担任制の導入が必要となるが、そのためには人手も必要となってくる。

(市長)

- 委員の皆様から頂いた現場の声、意見については知事会や市長会の中でも議論していきたい。
- 地域と家庭に対する役割分担のことや教職員の仕事に対する理解、働き方改革のメリット、デメリットといったことについて様々な意見を頂いた。それでは保護者に働き方改革の理解を進めるための取組についてどのようなことが有効か意見を伺いたい。

(教育委員)

- 登下校に関する対応については地域の方が丁寧に誘導してもらい感謝している。放課後から夜間の見回りは地域の方だけでは実施が難しいため、地域の公共団体の役割ではないかと思う。また、コロナ禍で PTA 活動も低下していたこともあり、第一段階として PTA 活動や地域の団体との関係性を作っていくことが必要ではないか。

(教育委員)

- コロナ禍で保護者が学校行事に参加できず、学校の状況を保護者に伝えられなかったということも大きな原因だと感じている。先日、「ひまわりフェスティバル」という行事があったが、児童生徒の普段の成果を保護者に見せることができ、非常に好評だったと思う。このような成果を発表する場を設けることは保護者の理解や手助けにつながるのではないだろうか。

(教育委員)

- 教職員の働き方改革については「保護者も一緒に取り組む必要がある」という理解が、まだ進んでいないと思う。まずは PTA 役員や学校運営協議会に浸透させていくことが一つの入り口になると思うので、しっかり情報提供し、一緒になって考える取組をすることで意識を醸成する足掛かりになるのではないかと思う。

(教育委員)

- 寺迫小学校の学校運営協議会は、昼間に実施することで学校の様子を見てもらう取組にしている。小学校の普段の様子を見てもらうことで意識が変わるきっかけになるかと思う。

(教育長)

- 資料にもあるが、それぞれの役割分担についてきちんと周知することが重要だと言われており、学校以外が担うべき業務の周知をきちんとできていないことが課題。地域や家庭にどのように周知していくのが重要である。
- 国からは標準授業時数の基準が示されているが、限られた時間数の中で発表機会のある行事を実施していくと授業数が不足してくる。その対応策としては、人を増やすか DX を導入することで効率化を図るかしかない。例として採点アプリケーションの導入などで時間を確保していく取組は有効だと思う。

(事務局)

- 教育長説明の補足として、教師の負担を軽減するため、現在、DX による解決方法の研究を進めている。具体的には、採点の実施を端末で行うことや答案を PDF 化し、自動採点することで成績処理、状況把握の業務を効果的にできるのではないかと感じている。その他、既に導入している校務支援システムのより良い使い方についても研究を進めているところである。

(市長)

- PTA 再構築の話についても様々な議論が全国的に行われているが、今回の議論のまとめとして新しい教育のあり方について引き続き考えていくことが重要になってくるかと思う。また、DX についても何ができるのか、ということを経済委員会と協議していく必要があると感じた。

(2) 第3次日向市総合計画の策定について

(事務局)

資料6～7に基づき説明。

(教育委員)

- 現行計画のロゴマークやキャッチフレーズも浸透してきていると感じる。現行計画の施策体系もとても見やすいと感じる。先程の話とつながるが、まちづくりと人づくりはリンクしていることから、重点戦略の一つである「未来につなげる人づくり」は非常に重要だと感じており、次期総合計画でも重点戦略のトップに「人づくり」を掲げてもらいたい。

(教育委員)

- まちづくりワークショップに参加し、様々な意見を聞くことができた。例えば若者の意見として、電車を待つ間の時間を過ごせるような場所が欲しいなど。すぐに解決できる課題ではないが、将来、日向市に戻ってきたくなるようなまちづくりができるようしっかりと取り組んでもらいたい。

(教育委員)

- 「日向ひまわり塾」で人材育成事業に関わらせてもらっているが、同塾でも似たような意見があり、若い人の居場所づくりが課題であると聞く。また、若者に対しての情報発信が必要となってくると感じているが、行政主導で日向市に人が来てくれるような仕掛けが何かできないか考えたい。

(教育委員)

- 人口減少の推移をみると寂しさを感じるが、魅力的な地域づくりを今後も進めていただきたい。癒しの場、心の安らぐ場があると良いのではないだろうか。人づくりが一番大事な柱になっていると思うので取組を進めてもらいたい。

(教育長)

- どの市町村も人が減る傾向にあり、全体のパイが減っていく中、市町村で人材を奪い合う状況が生まれている。教職員も同様であり、自治体の特色をどう発信するかが重要だと思う。
- 総合計画では「人づくり」を一丁目一番地に掲げており、10年後、20年後のまちづくりのために、どんな日向市になると良いかということを考え、社会全体で子どもを育てていく取組として、コミュニティスクール制度を始めた。保護者に安心して子どもを預けられるような環境をつくりながら、ワークライフバランスがとれるまちづくりができるような総合計画ができると良いと思う。

(市長)

- 人づくりは今後も重要だと捉えている。意見のあった若者の居場所づくりといった都会から戻って来られるような環境をつくることも重要だと考えている。

(3) その他について

《意見なし》